

活動プログラム	No.04 アニマルトラッキング		
期待される効果	 いきもの植物	 環境学習	 創造性
プログラム概要	自然の家周辺の動物たちの跡を追って、その動物がどんな生活を送っているのか、考えたり、調べたりします。人間は多くの生き物と関わりあって生活していることを体感し、環境問題や自然破壊に関して考えるきっかけとなります。		
対象	どなたでも	人数	クラス毎なら最大80名 グループごとなら最大120人
時期	通年	場所	自然の家周辺
金額	無料	大人の人数	15人に対して1人

準備物	団体ごと	救急セット
	服装 個人装備	長袖、長ズボン、帽子、水筒、タオル、軍手 カッパ（上下セパレート）、リュック
美方高原で レンタル可能な物		虫めがね、図鑑、長靴、クマ鈴（グループに1つ） 自然の家トレイルマップ ipad

活動のタイムスケジュール（例）

時間	運営	安全上のポイント
事前学習	施設周辺に生息している動物に関して 動物の跡（糞、食痕、足跡）などの見分け方に関して	糞に関しては細菌などの衛生管理に留意する
9:00	説明、散策開始	グループごとで散策を行う場合は迷いやすいポイントに、スタッフを配置する。
	スタッフ巡回	巡回しながらこまめな給水、休憩を促す
11:15	集合、ふりかえり	人数確認
11:30	終了	

補足ポイント

- 1クラス毎に施設職員をインストラクターとして、配置することができます。（自然学校に限る）
- 事前の学習や事後のまとめ発表会などを実施することでプログラムの効果を深めることができます。
- グループ毎でもクラス毎での運営が可能です。時間の調整が可能なプログラムです（1時間～）
- グループ毎で活動する際は、施設外に出る道にスタッフを配置する必要があります。

活動 プログラム	No.04	アニマルトラッキング
-------------	-------	------------

予期されるリスク	リスクに対する対応
道迷いや遭難	地図の配布や分岐点などにスタッフを配置する。無線機や個人の携帯電話なども使うと、指導者間の連携がしやすい。
散策道の状態	自然の家周辺の動物たちの跡を追って、その動物がどんな生活を送っているのか、考えたり、調べたりします。人間は多くの生き物と関わりあって生活していることを体感し、環境問題や自然破壊に関して考えるきっかけとなります。
クマや野生動物との遭遇	クマ鈴を装備させ、単独での行動をさせない。職員はクマよけスプレーを携帯しておく。
熱中症、脱水症状	塩分や十分な水分を準備するよう伝える。服装も調節を促し、日陰での休憩をとらせる。肌を露出させず、日焼け止めの使用を促す。
ハチ、ヘビとの遭遇	ハチやヘビとの遭遇した場合の対応を伝えておく。また散策道以外の山中には入らせない。散策道の付近のハチの巣の駆除。
天候不良	当日の天候や予測を確認し、著しく悪化する場合はプログラムの時間変更、もしくは中止する。
その他のケガ、体調不良	救急バックを携帯し、応急手当の準備をする。事前の体調調査、当日の確認を行い、バックアップ体制を整えておく。

事前点検・準備事項

散策コースは安全に通行できる状態か。
施設周辺の案内や地図は最新の状態のものを使用しているか。
天候の情報を確認して、適切な対応をしたか。
参加者の年齢、人数、スタッフ数、体調面などの情報は入っているか。
運営方法やタイムスケジュールは明確で共有されているか。
施設準備物は使用可能な状態か。または数は揃っているか。
参加者もしくは団体への持ち物の伝達は行ったか。

活動時のインストラクション（必須事項）

地図と案内をよく確認し、遭難に十分気をつけること。道ではないところには進まないこと。
必ずグループで行動すること。（クマとの遭遇を避け、遭難を防ぐため）
塩分、水分補給、を行い、こまめに休憩をとること。
衣服での体温調節を行うこと。
ハチ、ヘビと遭遇した場合は、刺激せず距離をとること。
有事の際は、グループ内で分かれ、最後に会ったスタッフを呼びに行くこと。必ず1人にならないこと。
30分以上他のグループやスタッフに会うことがなければ、その場から動かず、スタッフを待つこと。
足場を確認しながら進み、捻挫などに気をつけること。特に下りは十分に気をつけ、走らないこと。